藤木 貴史

1. 授業の概要(ねらい)

西洋の法体系は大きく2つに分かれています。一つは大陸法(Civil Law)であり、ドイツ・フランスが典型です。日本もこ ちらに属します。もう一つは英米法(Common Law)であり、イギリス・アメリカなどがこちらに属します。本講義では主とし てアメリカを取り上げます。

英米法Iでは、映像教材と講義を組み合わせながら、①英米法の特徴と大陸法の違い、②英米法における法の支配の確 立過程を理解することを目指します。英米法Iと英米法IIは連続性が強いので、できるだけ両方履修するようにしてくださ

※授業は、レジュメを配布して進めます。講義中詳細に触れられない点については、参考書で学習するよう指示することが あります。

2 授業の到達日標

- ・英米法の基礎的な知識を習得する
- ・英米法を知らない人に対して、英米法の仕組みを説明することができる
- 3. 成績評価の方法および基準
- ・期末試験:7割(説明問題/事案問題により、英米法の仕組みを説明できるかを測る)
- ・レポート: 3割(5月ごろにレポートの課題を提示する)

4. 教科書·参考文献

参考文献

伊藤正己・木下毅 『アメリカ法入門(第5版)』 日本評論社(2012年) 樋口範雄 『はじめてのアメリカ法[補訂版]』 有斐閣(2013年)

丸太隆 『現代アメリカ法入門』 日本評論社(2016年)

スティーブン・ファンズワース〔笠井修・高山佳奈子訳〕 『アメリカ法への招待』 勁草書房(2014年)

樋口範雄ほか編 『アメリカ法判例百選』 有斐閣(2012年)

5. 準備学修の内容

講義前:45分程度を目安に、参考書の当該箇所を読む。不明点をノートに書きだし、講義において問題点を理解できるよう にしましょう。

講義後:45分程度を目安に、参考書・レジュメの復習。友達・家族に、その日聞いた英米法のおおまかな仕組みを説明でき る程度まで復習しましょう。

6. その他履修上の注意事項

【授業に臨む姿勢】

・講義中は講義に集中することが求められます。ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。また、食事は 禁止します。(飲み物を飲むのは構いません)。

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

【関連科目】

・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法(民法総則、債権各論)、③民事訴訟法などの基礎的知識があること が望ましいです(ただし、これらの科目を履修していない学生でも、この講義を履修して構いません)

7. 授業内容

ガイダンス - 日本とアメリカ 【第1回】

【第2回】 大陸法(civil law)と英米法(common law)

陪審(1):陪審とは何か 【第3回】

【第4回】 陪審(2):裁判員制度との違い

【第5回】 法律家の養成(1):ロースクールの仕組み 【第6回】 法律家の養成(2):法曹一元について

【第7回】 裁判制度(1): 州裁判所と連邦裁判所

【第8回】 裁判制度(2):クラス・アクション

裁判制度(3):民事訴訟の仕組み 【第9回】

【第10回】 英米法の法源

法の支配と英米法の歴史(1):rule of lawとは何か 【第11回】

法の支配と英米法の歴史(2):イギリスからの独立 【第12回】

【第13回】 法の支配と英米法の歴史(3):マディソン対マルベリー事件

法の支配と英米法の歴史(4):違憲立法審査権 【第14回】

【第15回】 法の支配と英米法の歴史(5):違憲立法審査権の展開